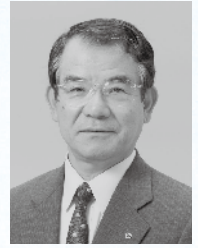


# 組込みシステム産業の 一層の活性化に向けて

一般財団法人関西情報センター 会長  
組込みシステム産業振興機構 副理事長

森下 俊三



IOT (Internet of things) やM2M (Machine to Machine) という言葉に見られるように、スマートフォンやテレビはもちろん、冷蔵庫や掃除機といった白物家電から自動車や住宅まで、私たちの周りのあらゆる機器に制御システムが組み込まれ、インターネットに接続されて、様々なサービスと連携する IT 融合型システムの構築が始まっています。

一方で、これからのビジネス展開においては、従来日本が得意とした高品質なものづくりだけではなく、融合新産業の構築を意識した新たな製品・サービス開発が重要となってきております。産業構造審議会が取り上げている具体的な重点分野としては、エネルギーと ICT の連携を目指すスマートコミュニティ産業、医療のトータルソリューションや健康・介護分野との連携を目指すスマートヘルスケア産業、日常生活と社会インフラの連携が不可欠なロボットビジネス、情報端末化する自動車と交通システム産業、自然環境や市場との最適制御が求められるスマートアグリシステム産業、電子化されたコンテンツの流通を前提とするコンテンツ・クリエイティブビジネスなどがあります。

こうしたビジネス・産業の展開において、モノとサービスの連携に重要な役割を果たすのが「組込みシステム」です。高度なサービス連携を実現するためには、「リアルタイム性」、「高信頼性・安全性」、「コンパクト化」、「高品質化」が一層求められており、これらの要求に応じていくためには、我が国の組込みシステム産業が抱える諸課題の解決を図らなければなりません。具体的には「ソフトウェアの品質低下」、「高度マネージャの不足」、「ソフトウェア開発標準がないことによる効率性の低さ」、「機器製造業から

のソフト、ハード一体開発への要望に応えられない」、「大企業の系列化傾向が強く、新たな取引などが行いにくい」などの課題であります。

そこで、関西経済連合会が中心となり 2010 年 6 月に産学官が連携して、人材育成、経営力強化、技術力向上、ビジネスマッチングのプラットフォームとして「組込みシステム産業振興機構」を設立し、「教育事業」、「開発支援事業」、「企画広報事業」を 3 本柱として組込みシステム産業の活性化に取り組んでおります。

SEC においても組込みソフトウェア開発力の強化手段として、高品質な組込みソフトウェア開発の実現に向けた具体的な技術整備の研究や組込みソフトウェア開発者向けスキル標準の策定が行われていますが、こうした活動の成果としてのガイドラインや教育カリキュラムには大きな期待を寄せています。

また、全国各地域においても組込みシステム産業の競争力強化のために協議会やフォーラムの活動が活発化しています。一般財団法人関西情報センターでも「組込み産業活性化フォーラム in KANSAI」を開催しているほか、「組込みパワフル企業集 in 関西」という企業データベースの構築を行うなど、組込みシステム産業の活性化に取り組んでおります。

SEC はもちろん日本全体の有機的連合体によって組込みシステム産業が一層活性化することを望みます。